



教員特別研究(先進的研究)成果報告書

配分研究費:2,220千円

ユーラシア文明の交錯と歴史文化資源を活用した地域の観光開発—福建省・広東省に於ける「海のシルクロード」を事例に

目的・概要

我々の作業仮説は、下記の中東イスラーム文化融合の3段階理論である。

第1段階 7～10世紀 陝西省・甘肅省

・羊の串焼き料理

・西安回民街

・中国でのエキゾチック・ツーリズムの対象。 政府の介入＝大

第2段階 19～20世紀 広東省・福建省

・イエメン料理、レバノン料理

・広州回民街

・民間の貿易の社交場。 政府の介入＝小

第3段階 21世紀 浙江省義烏

・義烏アラブ人街

・浙江省義烏の産業ツーリズムとは？

この中で、第1段階と第2段階については、2020年度～2024年度の調査で十分な知見を得た。2025年度は、この第3段階の「特徴」に関して調査した。

期間

令和6年4月1日～令和8年3月31日

研究担当者

文化政策学部 国際文化学科 教授 青木 健(研究代表者)

文化政策学部 国際文化学科 教授 俞 嶸

スケジュール

令和7年1月 地域連携実践演習

令和7年3月 厦門、泉州、莆田、深圳、広州調査

令和8年1月 地域連携実践演習

令和8年2月 広州、杭州、慈溪、義烏調査

研究成果

義烏では、中国人商人と中東アラブ人バイヤーの間で、甘肅省や寧夏回族自治区のアラビア語に堪能な中国人ムスリムがブローカーとして活躍していた。漢人社会で活躍の機会に恵まれなかった回族ムスリムが義烏に流入しているとすれば、現地での中国イスラーム文化は、「第1段階での西域イスラーム文化」と現代中東アラブ文化の混合形態と予想される。

すでに西域イスラーム文化は、甘肅省でエキゾチック・ツーリズムの消費対象として確立しているが、義烏の産業ツーリズムとは、バイヤーである中東アラブ人ムスリムの文化をどの程度取り込んだものなのだろうか。義烏の企業名には、イスラーム名(と漢字から判断される名称)が多いので、地域に一定程度根付いたイスラーム文化があって、それを取り込んだ浙江省版エキゾチック・ツーリズムではないかと予想される。

また、これに伴って、浙江省料理と中東アラブ圏のハラール料理が融合して、独自の浙江省ハラール料理が存在している可能性が高い。但し、予想に反して、大都市である杭州の中華ハラール料理よりも、義烏のハラール料理の方が発展している印象があった。更に、バックアッププランとして、「静岡～浙江省・福建省～イランのギーラーン州を繋ぐ「茶の道」の実態解明」に向けた浙江省でのお茶産業の取材もおこなった。

これらの成果のうち、中華ハラール研究については、将来の科研費応募に繋げていく計画である。また、杭州のお茶文化等については、静岡県との共通性が高いと認識したので、教員特別研究費「杭州の総合的研究」を立案できないかと計画している。



今後の研究成果の還元方法

・『静岡文化芸術大学研究紀要』への投稿

・中国経済研究学術誌への投稿

・継続研究での科研費への応募

・「イラン～中国を繋ぐお茶の道」での研究助成への応募